

令和 7 年度事業計画

1. はじめに

2025 年は、団塊の世代が 75 歳以上の高齢者となり、国民の 5 人に 1 人が 75 歳以上という超高齢社会に突入し社会保障費の増大が懸念されています。厚生労働省の推計によると、2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症となり要介護者が増える見通しとなっており、介護人材不足は深刻な問題となっています。

公益社団法人長寿社会文化協会は、「ともに働き、社会に役立ち、元気に学び、もっと楽しもう」の理念のもと、介護人材育成、認知症対応、社会参加等による生きがいつくり、介護予防事業などの分野でけん引的役割を發揮し、明るく元気で活力ある長寿社会構築と発展に寄与することを目指し、地域ケアシステム構築、深化に貢献していきます。

令和 7 年度、公益事業である「千葉県福祉ふれあいプラザ指定管理事業」は第 6 期指定管理者に選定され第 6 期スタート年です。千葉県高齢者保健福祉計画（令和 6～8 年）に沿って重点課題に取り組むとともにオンライン積極活用による全県対応推進を図ります。「福祉サービス第三者評価事業」は事務局体制整備による事業継続体制づくりを目指します。「コミュニティカフェ事業」は、WAC 独自事業として開設講座拡大、開設講座受講生ならび開設者のネットワークづくりに着手していき事業のステップアップを図ります。

一方、収益事業は、「高齢者福祉関係人材育成事業」拡大強化、そして収益事業の柱である「高齢者疑似体験事業」はデータ整備し事業立て直しを図り収益基盤強化を努めてまいります。

また、高齢者疑似体験など事業活動の情報などをホームページで広く発信できるように充実した内容をつくっていきます

2. 会員に関して

会員拡大は 本協会の重要な課題であり、新規会員の獲得、既存会員への継続にむけて、会報誌などをつうじて、会員に役立つ情報提供をするなど、WAC の活動が魅力的であるように努力を続けます。令和元年から賛助会員の会費は、寄付金に該当します。令和元年から税額控除の対象団体として認められ、少しずつですが、利用していただける会員は増えてきました。会員との交流イベントや勉強会、ポイントの活動支援（活動の情報発信など）を行っていきます。現役世代の 50 代後半から WAC の地域活動に関わってもらえるような、働きかけを行い、高齢者疑似体験や、受託の研修などを通じて新規会員の獲得を目指します。

（単位＝千円） ＊会員拡大のための経費は一般管理費等より支出

収入予算	支出予算	収支残
2,400	0	2,400

3. 事業に関して

【公益目的事業】

〔公1事業〕《高齢者福祉増進・啓発事業》

○高齢者の福祉・健康・生きがいづくり等支援事業（千葉県福祉ふれあいプラザ指定管理）

引き続き第6期指定管理者の指定を受け、令和7年度はスタートの年となります。令和6年度から始まった千葉県高齢者保健福祉計画（～8年度）の基本目標（「個性豊かに、健康で生き生きとした暮らしの実現」、「地域共生社会の実現のための地域包括ケアの深化・推進」）に沿った施策に取り組めるよう自治体や地域包括支援センターの現状を把握して課題に応える事業を進めます。

平成18年開所以来、「県民に愛される施設を目指す」をスローガンに19年間、千葉県の指導の下に県民とともに高齢者福祉の増進に努め、開所来の利用者数は290万人を越える施設となりました。コロナ感染症の影響により利用者数が激減しましたが利用者数も年々徐々に戻りつつあります。令和7年度は、県下のより多くの方々にご利用できるよう、介護実習センターでは県民研修におけるオンライン活用の積極拡大、介護予防トレーニングセンターでは各教室の充実、ふれあいホールでは公の施設として、高齢者はじめ、障害の有無にかかわらず、すべての人に対してスポーツ、文化活動、芸術活動のための施設として提供に努めます。

① 介護実習センター

県民研修（一般65・専門職40）計105講座開催、相談業務（介護と介護に関わる心の相談、福祉用具相談、住まいの相談）、体験コーナー（高齢者・認知症疑似体験、車いす体験）、常設福祉用具展示、地域の茶の間、千葉県福祉機器展ほか自主的事業として認知症啓発イベントを開催する。なお、体験に新たに介護技術体験を導入また全県域の地域の実情把握のため地域包括支援センターとの交流の場を設け情報交換をする。

② 介護予防トレーニングセンター

介護予防講習として一般向け教室3講座、登録者向け教室9講座計12講座を開催。

自治体・地域包括センター職員向け介護予防担当者研修実施。認知症予防体操イベントを実施する。

③ ふれあいホール

ホール自主企画事業として、県民や地域の高齢者が無料で鑑賞できるイベント「ウインターコンサート」開催また障害者スポーツ利用促進の取組みとして障害者スポーツ体験会、講習会を開催する。

（単位＝千円）

収入予算	支出予算	収支残
88,451	88,451	0

○福祉サービスの質の向上（第三者評価事業）

2003年より評価機関として活動が続け、2025年（令和7年度）で22年となります。

第三者評価を行う評価者は社会貢献的なやりがいがある仕事です。今年度は、評価者同士の交流と情報共有、勉強会を兼ねた研修会を開催予定です。新規の評価者の育成にも力をいれていきたいので、先輩評価者との研修や、同行などを行っていきたいです。

（単位＝千円）

収入予算	支出予算	収支残
10,000	6,000	4,000

○長寿社会の啓発事業（「ふれあいねっと（会員向け情報誌）」の発行）

令和7年度は、年4回の発行を目指します。会員と本部、ワックの活動の広報資料として活用していきます。

（単位＝千円）

収入予算	支出予算	収支残
0	1,800	▲1,800

【公2事業】《高齢者の雇用・就労支援事業》

自治体からの福祉の仕事への就労支援事業として就職相談会、就職フェアの受託を目指します。

（単位＝千円）

収入予算	支出予算	収支残
400	200	200

【公3事業】《地域の相互扶助機能活性化事業》

（コミュニティカフェ）

令和6年度に続き、コミュニティカフェ開設講座と全国交流会を開催します。

（別紙チラシ） 全国交流会は令和8年2月28日（土曜日）開催予定です

研修内容については、参加した方の満足度があがるように内容を工夫していきます。

（単位＝千円）

収入予算	支出予算	収支残
600	400	200

【収益事業報告】

【収1事業】《高齢者福祉関係人材育成事業》

自治体などからの委託事業など

東京しごと財団 委託事業 生涯現役セミナー 都内年間 60 回開催

文京区 介護人材育成事業（入門的研修の開催）を行います。

板橋区 介護予防・日常生活支援総合事業（入門的研修）を行います。

委託事業だけではなく、高齢者福祉に関する独自の研修事業を 1 コースは開催したいと考えています。

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
32,000	24,000	8,000

【収2事業】《高齢者・認知症疑似体験事業》

①インストラクター養成研修

WAC本部開催 年 4 回 第 1 回 5/29 (オンライン実施済) 第 2 回 9/18 (対面研修)
第 3 回 11/20 (オンライン) 第 4 回 2/19 (オンライン)

全国各地での出張研修 オンライン研修開催

②体験・販売

台東区 小学生対象高齢者疑似体験事業（つくし君貸出）

ホームページからの問い合わせが多いのでホームページの充実をはかり、広く情報提供をすることをめざします。また今までの購入先、貸し出し先の洗い出しをして、現状をきき、高齢者疑似体験を使ってもらえるように営業活動を行う。

認知症疑似体験は貸し出しのみとして行います。また認知症研修の講師依頼も数件あるので、高齢者疑似体験とあわせての研修などをすすめていきたいです。

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
6,000	4,260	1,740

【収3事業】《介護予防委託事業》

(品川区委託事業)

平成15年度から行っている、高齢者介護予防事業として

シニアのためのやさしい手料理教室 各 10 回×2 コース×2 会場

高齢者外出習慣化事業 毎月第二火曜日 12 回×1 会場

わくわくクッキング 各 10 回×3 コース×1 会場

を行っていきます。

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
5,000	3,900	1,100